

表1 出題問題の検討

不適切問題

問題	検討内容
<p>午前21 18歳の女性。未婚。無職。パートナーはいるが、経済的支援を受けられない。両親の所在は不明。腹痛の訴えがあり救急車で病院に搬送された。診察の結果、妊娠37週相当と診断され、胎児心拍数モニタリングを行い、胎児のwell-beingは良好であった。子宮口は8cm開大している。女性は「妊娠していると思わなかった。自分では育てられない」と言う。 この時点で連携をとる施設はどれか。 1. 乳児院 2. 助産施設 3. 母子生活支援施設 4. 市町村保健センター</p>	<p>この8cm開大している状態で、しかも、若年、妊婦健診未受診、経済的問題、37週相当、リスクを伴う分娩であるため、まずは母子の安全な分娩を最優先すべき事例であると考え。 救急車で搬送された病院が、第一種助産施設であるかどうかは不明であるが、この病院が助産施設でない場合には、この時点で連携をとる施設として、「助産施設」は正答である。しかしこの病院が助産施設である場合には、「助産施設」は誤答となる。 問題文中に「この時点」という言葉があることによって、8cm開大している今の時点なのか、女性が「自分では育てられない」といっている記述があることから、分娩後、必要となる支援(子供の養育や、経済的支援等)をどのようにするか、どちらに力点をおこうとしているのか曖昧にしている。 設問の記載が不十分であり、正答となる選択肢がないため、不適切である。</p>

課題のある問題

問題	検討内容
<p>午前23 Aさん(35歳、初産婦)。妊娠38週3日、3,600gの女児を正常分娩した。分娩時、会陰裂傷第3度と膣壁裂傷とがあり、縫合術が施行された。Aさんから「私の分娩には健康保険が使えますか」と質問があった。 助産師の説明で最も適切なものはどれか。 1. 「裂傷の大きさによって異なります」 2. 「帝王切開以外は使えません」 3. 「縫合の処置料は使えます」 4. 「分娩介助料は使えます」</p>	<p>保険診療のことはとても大切ではあるが、「会陰裂傷3度と膣壁裂傷があり縫合術が施行された」という具体的な状況について問うことが、助産師国家試験問題として適切かどうか疑問が残る。</p>
<p>午前39 新生児の呼吸窮迫症候群(RDS)について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 肺胞の表面張力は低下している。 2. 糖尿病合併妊娠では発症頻度が上昇する。 3. 破水後時間が経つと発症頻度が上昇する。 4. マイクロバブルテストは診断に有用である。 5. 酸素管理は動脈血酸素分圧(PaO₂)を100Torr以上に保つ。</p>	<p>設問および選択肢については、妥当であると判断する。しかし、選択肢5に使用されている単位に問題がある。酸素分圧の単位にTorrが用いられているが、現在の世界統一単位は、hPaとなっており、日本では、1992年12月1日から導入されている。 Torrは臨床でも使用されていない単位でもあるため、hPaもしくはmmHgと併記することが望ましい。</p>